

令和3年度（第1回）京都府国民健康保険運営協議会の議事概要

令和3年11月29日（月）
午後3時30分～4時30分

京都ガーデンパレス「葵」

出席委員（被保険者代表）

宇野委員、尾松委員、尾崎委員、鎌田委員

（保険医・保険薬剤師代表）

内田委員、清水委員、鈴木委員、近田委員

（公益代表）

井上委員（会長）、桂委員、荻野委員

（被用者保険等保険者代表）

中島委員

1 開会

2 挨拶

中川健康福祉部保健医療対策監から開会の挨拶

○ 新たな任期開始に伴い、委員紹介

○ 協議会の設置根拠規定等の確認

○ 定足数の確認

○ 会長の選出

井上委員を会長に選出

○ 会議録署名委員の指名

会長が会議録署名委員2名に被保険者代表の尾松委員及び保険医代表の清水委員を指名

3 国民健康保険事業の実施状況等について

事務局から資料1～4により説明

※質疑なし

4 保健事業の取組について

事務局から資料5・6により説明

<質疑応答>

委員

昨年度の協議会では、保険給付の適正な実施に関する事項のうち、第三者行為求償や療養費の支給の適正化に関する事項など、運営方針策定時の実績と現状の

実績を比較した資料の説明があったが、今回説明はないのか。

事務局 次回第2回の協議会で説明させていただく。

委員 資料17ページの糖尿病重症化予防対策事業における市町村実施計画において、一部の市町村では「治療中断者」を対象にした事業から以降の事業を実施していないところがあり、該当する人が少なければ問題ないが、市町村の状況は把握しているか。

事務局 事業実施には医師会の先生方との連携が重要。各保健所にて管内ごとに市町の担当者や管内の医師会の先生方と仕組みづくりについて検討をしており、26市町村実施できるよう引き続き支援していきたい。

委員 各保健事業の効果検証はできているか。
受診勧奨で何人に繋がられた、重複服薬では何人にお知らせできたなどの実績はホームページを見たら分かるのか。
実績数値や効果検証結果も可能な範囲で報告願いたい。

事務局 今回は事業の紹介がメインだったため、実績については改めてお伝えする。
未受診者対策では、府内で約1,000人が受診に繋がり、受診率でいうと6割程度の成果が出ている。治療中断の対象者については、医療機関に繋ぐのが大変難しく市町村の担当者も家庭訪問をするなど工夫して支援しているが、だいたい3割程度の方が受診に繋がっている。
アウトカムとしては、新規人工透析導入を減らすことであり、数年かかる指標ではあるが評価していきたい。

委員 事業の実績や効果について、できるだけ資料等で見える化していただきたい。

委員 重複投薬の件については、一昨年からは開始しているが、これまで事例がなくプログラムがうまく進んでいなかったため、今年度プログラムを組み直して実施している。
お薬手帳を持ってきていただければ、かかりつけの薬剤師が他の医療機関で処方された過去分も確認できて重複回避されている事もある。そのためレセプトに上がってこない案件もある。新しいプログラムでは、重複を適切に抽出することが可能となっているため、今後も引き続き経過を報告していけると考えている。

委員 保険者努力支援制度のインセンティブは、これまで度々内容が変更されているが、中長期的にみた一番適切なアウトカム項目においては、国レベルと府レベル

で別途あってもいいのではないか。アウトカム指標が改善された項目に保険者努力支援制度の恩恵がまわるような取組を考えていただきたい。

事務局

中長期的な方向性と府の達成状況を踏まえて資料を作成していきたい。

5 閉会

片岡健康福祉部副部長から閉会の挨拶

(以上)